

## 議会報告会ワークショップ意見の回答

各会場で出された意見・質問について整理し、下記項目について現在の状況や事実関係について市に確認をしました。その結果に基づき、議会として回答させていただきます。

### 記

- ①文教ガーデンシティ事業は、伊豆市の将来を考えると良いこと。予算がかかるが実現してほしい。駅から少し離れているので、道路をどうするか、バス路線などのアクセスをどうするか。

#### 【回 答】

市では、通学を含めた安全な歩行空間を確保するため、「中心市街地歩行者空間に係る調査検討業務」の中で、歩行空間を中心に検討しています。また、バス路線については、既存のバス路線の変更や増便等を含め教育委員会やバス事業者との協議を進めていると回答がありました。

議会としては、道路については、夜間を含めて歩行者の安心安全をいかに確保するか、バス路線については、各地からのバスで通学する場合の路線や既存のバス路線の変更・増便について、乗降場所の案を早期に提示されるよう求めています。

- ②文教ガーデンシティ事業費 90 億円の財政シミュレーションを見て、伊豆市の財政が健全といえるのか、赤字の影響は市民生活につながるのではないかと。

#### 【回 答】

市民説明会においては、文教ガーデンシティ事業の実施にあたっては 20 億円の一般財源が必要であり、これを、財政調整基金の活用で賄うこと。また、財政調整基金の残高は減少することになるが、一方、シミュレーションで示されていない平成 38 年度以降の合併特例債償還に対応するため、毎年度一定の積み立ても実施していくと説明がありました。

また、市では市税や地方交付税の減少など一般財源が減少していく中で、今後とも長期的視野にたって、公共施設の統廃合・民営化、一般行政経費の節減・見直しなど行財政改革を強力に推進していくことで健全財政を維持できるものと考えていると回答がありました。

議会としては、市より示された財政シミュレーションは、平成 37 年度までの見通しであることから、平成 38 年度以降についても将来が見通せるように、今後、短い周期で決算ごとに、新たなシミュレーションを行い、市民に公開するよう要望していきます。

③ふるさと納税について、西伊豆との差が大きい。伊豆市は少ない。なぜか。旅館、ホテルが協力してふるさと納税の増加に努めてほしい。返礼品を検討してほしい。

【回 答】

市は、本年7月、地域産業の振興・伊豆市のPRを目的に返礼品の公募を行い、ポータルサイトのリニューアルに合わせ返礼品の充実を図っています。これまでの市内特産品をはじめとする「モノ」に加え、宿泊や体験などの「サービス」も取り入れ、返礼品を充実させることで伊豆市の魅力を広く全国にPRするとともに、ふるさと納税の増加を目指していると回答がありました。

議会としても、市民の要望に沿うよう、検証していきます。

④伊豆市内の観光施設のトイレの洋式化を進めてほしい。

【回 答】

市では、平成 27 年度から計画的に、公衆トイレの洋式化に取り組んでいます。平成 28 年度についても、29 の便器の洋式化、手すりの設置バリアフリーを予定しています。また、今後も、公共施設の適正規模を踏まえつつトイレ、多目的トイレ等の整備については、平成 30 年度中に 80% までの整備を計画していると回答がありました。

議会としても、計画どおりの実施を求めています。なお、現状を把握し、洋式便器のないところは、優先して整備するよう求めています。

⑤観光振興策として、修善寺駅と温泉場までの遊歩道を整備してほしい。(街灯なども同時に設置してほしい。)

【回 答】

市では、温泉場までの道路は、国道・県道であるため、歩道整備について今後も県土木事務所に要望していきます。また、今後オリンピックにあわせたサイクルロードを含めた歩道整備も検討していると回答がありました。

議会としても、国、県への要望を継続するよう求めています。オリンピックに合わせた歩道整備についても、推し進めていきます。

⑥サイクルロードの設置(修善寺駅からペロドロームまで、伊豆市の名所・旧跡を巡るコース、自然を楽しむコースなど)

【回 答】

現在は、レンタサイクルを行っている市観光協会天城支部やNPO法人「すてきなごえん」が独自で、サイクリングの推奨コースを設定しているほか、「サイクルメッカ伊豆」でも市内の名所を巡るサイクリングコースを設定しています。

また、市では、今年度策定する「伊豆市自転車まちづくり計画」や、沼津市を中心に3市1町で構成する「狩野川周辺サイクル事業推進協議会」で新たなサイクリングマップを作成するなどサイクリングの環境整備を計画しているため、広域的なコースの設定やこれまでのコースの見直しなど、関係機関と協働で進めていると回答がありました。

議会としても、サイクリングの環境整備計画を検証して、国・県にも要望していきます。

⑦産業振興協議会の法人化を進め、もっと活動しやすくしてほしい。

【回 答】

市では、現在、本年4月に設立した商工会、観光協会、伊豆の国農業協同組合及び市の4団体で組織する産業振興協議会で、観光客へのアンケート調査、販路拡大事業、特産品開発に向けた情報収集及び各団体事業の調整などを連携し、実施しています。法人化については、来年4月に設立すべく準備をしていると回答がありました。

議会としても、情報公開を含めて、市民への広報と民間活力の導入による産業振興に寄与するよう求めています。

⑧ふらっと月ヶ瀬施設東側の道路が、北側に向かいその先で遮断されているが、防災上また、病院患者の避難誘導路等考え、慶友病院へ繋げてほしい。

【回 答】

市では、改良した市道月ヶ瀬小学校線が、旅館「雲風々」側から国道414号に接続されているため、通り抜ける道として防災上問題は無いと考えています。また、病院患者の避難路を考えた慶友病院に繋げる道路は、現道路の高さと慶友病院の駐車場との高低差が約8.0メートルあり、病院患者の避難路としては、急勾配であり、適当でないと考えているため、今後別ルートを検討していくと回答がありました。

議会としては、別ルートの検討について、皆様の要望を踏まえて、経過を検証していきます。

⑨田沢橋の老朽化や幅が狭いため、改良してほしい。

【回 答】

市では、田沢橋の点検を平成20年度に行い、平成23年度に作成した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、平成25年度に本線の修繕を実施しました。平成25年の道路法改正により5年に1度、近接目視で点検の義務付けがされ、本年度田沢橋(本線、側道)の点検を行います。その点検結果により橋の健全性を判断していきます。幅員につきましては、現状でお願いしたいと回答がありました。

議会としては、歩道もあるため、歩行者の安全は確保されていると判断します。本年の橋の点検結果を踏まえて、接続する道路も含め、改良について研究していきます。

⑩天城北道路の完成時において、周辺交通量の実績・見込みは。(道路渋滞による、生活・商業(店)・観光他に及ぼす影響は)

【回答】

市によると、天城北道路完成時の交通量見込みについて公表されているものはありませんが、東駿河湾環状道路や圏央道が開通したことにより、県外から伊豆半島方面への流入車両が約1.4倍に増加しているという調査結果があるとのこと。

開通前 約6,500台(平成22年8月14日(土))

開通後 約9,400台(平成26年8月13日(水)ナンバープレート調査結果)

市では、天城北道路が開通すればさらに増加する可能性があり、天城北道路及び下船原バイパスが開通することで、出口交差点(青羽根)では大きな渋滞解消を期待しています。国道136号の大平から月ヶ瀬間及び県道修善寺天城湯ヶ島線の交通量もかなり減少するのではないかと、また、反対に天城北道路の終点である国道414号の月ヶ瀬から下田方面の交通量は、観光客の増加に伴い交通量が増加すると予想しています。

議会としては、今後、様々な影響が出ることも予想はされますが、周辺全体を考えた場合、道の駅の計画もあり活性化を期待しています。好ましい効果が出るように調査・研究していきます。

⑪修善寺駅西口の歩道は、なぜなくなってしまったのか。

【回答】

市より、修善寺駅周辺整備事業の中で、駅北広場整備及び市道新町線改良に伴い、既存の歩道は駅北広場の歩道を兼用するものとなっていると回答がありました。

⑫修善寺駅西口広場をイベント等に早期使用できるように望む。

【回 答】

市より、平成28年6月15日に開催された、『デイ・カウンター』ボード除幕式イベントに合わせ使用できるようになりました。芝生の保護、周辺への配慮等の規則を守る条件で、申請書を都市計画課に提出すれば、使用できると回答がありました。

⑬新中学校でのバス通学路線・時間・本数、自転車通学、補助体制等未定部分の早期市民周知を。

【回 答】

市より下記のとおり回答がありました。

【バス通学路線・時間・本数について】

新中学校へのバス通学は、現行の路線バスを基本に、乗降バス停を、「遠藤橋」、「柏久保」（鮎見橋）、「妙国寺」、「修善寺駅」等を想定し、予想される通学・帰宅時間と生徒数等に応じた路線バスを確保できるよう、バス事業者と調整しています。また、新中学校への乗り入れが可能となるよう、バス停の設置、ルートの変更、必要な施設整備も含め検討しています。路線バスの時間やルート変更等、新中学校の通学環境については、順次、市民に周知します。

【自転車通学について】

新中学校への自転車通学の促進に向け、安心安全な通学ルートの確保と同時に、生徒への交通安全教育推進など事前の準備が必要となっているため、今後は、自転車通学対策はもとより、バス通学対策や自家用の送迎対策など通学に関する様々な課題解決に向けた「通学対策部会」を開校の準備委員会の中に設置し、学校・地域・保護者・学識者等の意見をいただき、開校に向けて進めていきます。

【補助体制について】

現在、伊豆市に在住し、片道2km以上の児童・生徒がいる保護者を対象としている通学費の補助制度は、バス・電車通学は定期券を全額補助、バス・電車通学以外は通学距離に応じて補助しています。今後も、この制度は、継続していきたいと考えています。

議会としては、予想される状況を踏まえ、バス事業者との検討内容について検証していきます。また、検討の結果について、対象となる市民に不安を与えないよう、早期に周知徹底するよう要求していきます。